

若い小学校教師にお薦めする 10 冊

齊藤 振一郎（札幌市立元町北小学校 教諭）

「教師は本を読まない」…と、よく言われます。実際、小説などは読んでいる方も多いですが、学術的な本や専門書などは読んでいない方が少ないように感じます。

小学館の『小〇教育技術』だけで毎日乗り切る事もできなくはないですが、それだとしても実践に厚みや深みが欠けてきます。様々な教科を指導しなくてはならない小学校教師としては、できれば様々な本を読んで、実践に厚みや深みを加えていきたいものだと私は思います。

そこで、これまでに私が読んで参考になった本の中から 10 冊を紹介します。どれも私が再読した（多いものだと毎年 1 回は読んでいる）本ばかりです。宜しかったら、長期の休みなどに読んでみてください。

- | | | |
|--------------|-----------|-------|
| ①発達障害の子どもたち | （講談社現代新書） | 杉山登志郎 |
| ②発達障害のいま | （講談社現代新書） | 杉山登志郎 |
| ③幼児教育と脳 | （文春新書） | 澤口俊之 |
| ④オレ様化する子どもたち | （中公新書ラクレ） | 諏訪哲二 |
| ⑤上達の法則 | （PHP新書） | 岡本浩一 |
| ⑥「超」整理法 | （中公新書） | 野口悠紀雄 |
| ⑦ゾウの時間ネズミの時間 | （中公新書） | 本川達雄 |
| ⑧部首のはなし | （中公新書） | 阿辻哲次 |
| ⑨日本語教のすすめ | （新潮新書） | 鈴木孝夫 |
| ⑩下流志向 | （講談社文庫） | 内田樹 |

読みやすさを重視して、全て新書（1冊だけ文庫）にしました。また、書店に無い場合、インターネットなどで簡単に取り寄せができるよう、現在でも入手可能な本だけを選んであります。

以下、それぞれの本について、もう少し詳しく説明します。

①発達障害の子どもたち （講談社現代新書）杉山登志郎

②発達障害のいま （講談社現代新書）杉山登志郎

小学校の各教室には 6% 前後の発達障害の子供がいると言われていています（現場の実感としては、1 年生なら 10% 以上と感じます）。その子供たちを理解し、致命的な指導ミスを行わないためには、どうしても発達障害に関する知識が必要となります。そのための入門書として良いのが、この 2 冊です。できれば両方とも読んでおきたいですが、さし当たり①だけでも大丈夫でしょう。

③幼児教育と脳 （文春新書） 澤口俊之

どの様にして子供の脳が育っていくのかを、比較的判りやすく解説した本です。小学校低学年を担当する際、大いに参考となります。上記①や②とも関連する内容もあり、一緒に読むとより理解が深まるでしょう。

④オレ様化する子どもたち（中公新書ラクレ） 諏訪哲二

最近の子供たちは昔の子供たちと何が違うのか…を考える上で参考になる本です。著者は元々高校教師だったので、中学校や高等学校の教師が読んでも参考になるでしょう。著者の所属する「プロ教師の会」には様々な意見がありますが、一読の価値はあると思います。

⑤上達の法則（PHP新書） 岡本浩一

小学校の教師には授業技術が必要です（他校種でも必要だと予想されますが、私の専門外なので言及は避けておきます）。その、授業技術を高めるためには一体どうすれば良いか…というヒントが書かれた本です。

⑥「超」整理法（中公新書） 野口悠紀雄

毎日どんどん増えるプリントをどうやって処理するか…という仕事術が書かれた本です。もっとも、仕事術そのもの以上に著者の発想方法が興味深いです。どちらかと言えば、その面で私には役立つ本でした。

⑦ゾウの時間ネズミの時間（中公新書） 本川達雄

生物に関する興味深い話が沢山出てきます。アサガオからカイコ、ザリガニ、メダカ…等々、小学校教師は様々な動植物を飼育栽培しなくてはなりません。苦手だ、嫌だ…と言う前に、少しでも克服する努力をした方が良いですから、読んでおいて損の無い本だと思います。

⑧部首のはなし（中公新書） 阿辻哲次

⑨日本語教のすすめ（新潮新書） 鈴木孝夫

小学校教師にとって国語は最重要科目です。低学年であれば1日2コマは国語を授業しますから、国語に関する知識は多くて悪い事などありません。そこでまず⑧、漢字の部首に関する興味深い話が沢山出てくる本です。そして⑨、国語全般に関する雑学的な内容が沢山書かれた本です。雑学的と言っても高度な内容が多く、国語の面白さを感じさせられます。もっとも、残念ながら私は、これらの本で得た知識を充分授業に生かし切れてはいないのですが…。

⑩下流志向（講談社文庫） 内田樹

これだけが文庫本で、子供たちが学ばなくなってきたのは何故か…を論じた本です。上記④に関連した部分もあり、一緒に読むとより考えさせられます。また、後半に出てくる「教育するとは、どういう事か」を『スター・ウォーズ』を使って論じた部分は、「教師は謙虚に学び続けなくてはならない」と強く感じさせられます。一読の価値ありと私は思います。

平成27年度、新卒新採用の方と学年を組んでいます。その方をどうやって育てていくか…私に与えられた大きな課題です。

そこで夏休み前、その方に上記プリントを渡しました。北海道師範塾には若い教師も参加していますので、何かの参考になれば…と思い寄稿しました。